



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 宮崎 隆

新年おめでとうございます。
東京は穏やかな新年を迎えましたが、今年が皆様にとりまして佳い年になりますようにお祈り申し上げます。



さて、IT やコンピュータの進歩により私たちの生活を取り巻く環境が一新し、教育現場も変貌しつつあります。本歯学部ではいち早く IT 教材の導入を進め、電子ポートフォリオや E ラーニングが学生教育に定着しつつあります。いつでも、どこでも、簡単にそして繰り返し利用できるのが IT 教材のうたい文句であり、学生が能動的に学習できるように支援することを大目標に掲げています。一方で、電子ポートフォリオが、学生にとって入力してファシリテーターの点検を受けることが目的にすり替わり、各自の成長に結びついているかを検証する必要があると感じています。本来必要なのは自ら学ぶ力、学び続ける力の育成です。

歯科医療では口腔機能の維持や再建のために、歯の修復治療や補綴装置を利用した治療が中心に行われてきました。これらの治療には正確で緻密な手技が求められるので、歯学教育では保存系・補綴系の技能系実習の比重が高く、模型やファントム(人形)を活用してきました。現在では医学教育でもファントムの活用が進められています。このファントムにもコンピュータを利用して色々な機能が付与され、今ではシミュレーターという用語が普及しています。本学では榎教授がヒューマノイド患者ロボットを開発し、世界的に注目されています。クラウン・ブリッジや可撤性義歯のような補綴装置の作製は、支台歯、対合歯、顎堤など生体側に適合して調和させるために、製作工程が複雑でした。この工程に近年コンピュータを利用した CAD/CAM が実用化され、歯科病院の技工室や旗の台校舎の実習室に CAD/CAM 装置が導入され活用が進められています。こちらも便利なツールになり、近い将来、私たちが患者さんの口腔内をカメラでスキャンしてデータを入力すると機械が全自動で補綴装置を作製してくれることも可能になるでしょう。一方で、私たちが便利なツールに慣れて過信すると思いがけないところで事故につながりかねません。高

齢者歯科学の佐藤教授(日本歯科医学教育学会常任理事)が、教育学会誌の最新号の巻頭言で「知識の教育から能力への教育へ」と題して非常に興味深い提言をしていますので、是非関係者にも一読をお勧めします。

先日、神奈川県歯科医師会の歯の博物館を見学する機会を得ました。この博物館には、日本独自の歯科の歴史ならびに西洋の歯科導入の歴史が、浮世絵をはじめ貴重な資料で紹介されています。日本独自の木床義歯の精巧さと当時の入れ歯師と呼ばれた専門家の高い技術には感嘆させられます。義歯の三次元形状を頭の中で構築し、柘植の木からノミで削りだし、口腔内の適合は蜜蝋を利用して少しずつ調整して、最後は木の葉で研磨をして仕上げます。現在の CAD/CAM が当時の職人以上のものを提供できるのかどうかは別として、デジタル化により知識や技術には国境がなくなり、人類全体への貢献は間違いありません。補綴装置の形だけでなく、口腔機能の評価もデジタル化により客観的になり、健康への貢献度も高くなるでしょう。しかし、医療なかでも歯科医療は従来から極めて個別化が必要な医療であり、歯科医師の力量が必要とされます。今後、在宅医療を含めて多様な環境で患者中心の質の高い医療を提供するためには、デジタルの利用も必要ですが、歯科医師が自分で考える力、自分の手で処置できる技能がますます必要になるでしょう。

新年を迎えるにあたり、本年は教育現場にデジタルの活用を促進するとともに、歯科医師の根本的な資質の涵養についても再検討を進めていきたいと思えます。関係者のさらなるご指導とご協力を宜しくお願い申し上げます。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 2月14日(日): D4 OSCE
- 2月27日(土): 選抜二期・センター利用二期入試
- 3月1日(火): 新D2 オリエンテーション
- 3月2日(水): 新D2 防災訓練
- 3月10日(木): D5 iOSCA
- 3月11日(金): 卒業式
- 3月18日(金): 大学院修了式
- 3月18日(金): 歯科医師国家試験合格発表
- 3月25日(金): 白衣授与式
- 4月2日(土): 大学院入学式
- 4月12日(火): 入学式

歯科医師会と教育についての意見交換会を行いました

教育推進室 片岡 竜太

卒業生の多くが地域医療の現場で活躍する本学では、早期から地域医療の現場に触れさせ、そこで活躍する歯科医師の背中を見て、歯科医師としての将来像を考えるために歯科診療所体験実習を山梨県歯科医師会および東京とその近郊の歯科医師会のご協力を得て1年生、3年生で実施しています。昨年度から必修化した「地域連携歯科医療実習Ⅱ」では11月から12月にかけて3期に分けて約100名の歯科医師会の先生方に学生の指導をお願いしています。本実習では指導をしていただく先生方に、現在の昭和大学歯学部における教育と本実習で学生に身につけさせたいことを実習説明会で説明しています。先生方には2日間、始業から終業まで学生を指導していただきました。臨床の最前線にいる先生方に学生の指導を通じて、見えてくる大学における教育について、意見を伺うのが主旨で12月17日(木)学生による実習報告会終了後に意見交換会を開催しました。

報告会への参加者は歯科医師会から約35名うち25名の先生方が報告会に引き続き意見交換会にも参加していただきました。モチベーションの向上、コミュニケーション教育の場、将来の歯科医師像を考える場になっているなど実習の意義を多くの先生方が感じられており、情熱を傾けて指導をしていただいていることがよくわかりました。昨年からの反省から学生の自己紹介シートを実習前に指導していただく先生方へ送付しましたが、出身地やクラブ活動など学生の事を把握しやすくなり充実した実習が行えたというご意見が多く聞かれました。実習時間が長すぎる、目の防護のためゴーグルを持参した方が良い、バキュームの仕方など事前に相互実習を大学で行うことでさらに参加型の実習にできるなど建設的なご意見を頂戴し、今後の実習の改善に活かしていきたいと思えます。その後、タワーレストラン昭和では懇親を深めることができました。本学の教育を理解し、本実習で指導をしていただいた先生に5年生の在宅訪問診療実習もご指導をいただくよう現在準備を進めています。歯科医師会の先生方と大学の教員が同じ気持ちで、学生と患者さんのために歯学教育ができる時代が来たことを実感する会になりました。



最後になりましたが、今回の実習の遂行には、教育連携協定を締結している東京城南地区の品川、荏原、目黒区、大森、蒲田をはじめ世田谷区、玉川、川崎市、新宿区、江戸川区、調布市、清瀬市、船橋、相模原市などの各歯科医師会の方々ならびに昭和大学歯学部同窓会の皆様にお世話になりました。歯科医療の発展のために、今後とも学生教育へのご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

財)海外法人医療基金の医療チームの一員としてドイツ医療巡回に参加しました

大学院2年(小児成育歯科学専攻) 下村 直史

平成27年12月7日～16日にかけて一般財団法人海外邦人医療基金(JOMF)が行っている医療派遣でドイツに行って参りました。

JOMFは昭和59年に外務・厚生・労働3省の共管で設立された公益法人で、海外に派遣され在留されている邦人の医療不安解消を目的に事業を行っています。



現地で行った主な内容は、幼稚園児～中学生とその保護者の健診・相談対応・小学生に対する保健講義です。今回の派遣を振り返ると、昨年度総合診療歯科で担当患者を多く担当させて頂きながら研修を行えたこと、今年度から小児歯科において患児を診ながら保健所や学校における検診にも参加してきたことなどの、短いながらも今までの歯科医師としての経験が活かされたと実感しています。

初めての場所・内容・人間関係という、初めてづくしの濃厚な10日間でした。これまで私には“海外に対する医療派遣＝途上国への医療協力”という考えしかありませんでしたが、今回のようなニーズもあることを知り、またそれはとても強く望まれているという事を直に感じました。巡回メンバーの先生の中にはとてもユニークな先生もいらっしゃり、それも含めて今までにない知見が開けました。今回の派遣に際しご尽力下さった皆様に感謝致します。



臨床シナリオ・学部連携 PBL を体験しました

歯学部3年 伊藤 恵吾

平成27年12月4日、10日、15日の3日間に渡り、臨床シナリオ・学部連携 PBL を行いました。学部連携の PBL は1年次にも行っていましたが、今回の PBL はその時とは異なる点がありました。それは、各学部の学生が専門的な知識を持っているということです。

実際の討論では、まずは各学部の学生がそれぞれシナリオからわかることを詳しく説明するところから始まりました。1年次はわからないことが大半でしたが、今回はわからないことを絞って話し合うことができ、それによって一つ一つの問題についてより深く検討することができたように思います。抽出した問題点も各自がそれぞれの専門分野を調べて全員に説明することで、全体としてその問題点を解消することができました。

その中で知識を持ったことによる問題もあることを知りました。それは患者さんの治療プランを考える際に、知識一辺倒の偏ったものになりがちになってしまうということです。治療・ケアプランは、理論や理屈だけではなく患者さんの希望を含めて総合的に立案する必要があるということを学ぶことができたのは大きいと思います。

4学部で行う PBL は昭和大学の特色であり、4学部連携でやるからこそその利点を知ることができ有意義な実習となりました。今後4年次にはもう一度 PBL があり、その次には病院実習があります。この経験を次へとしっかりと活かしていきたいと思っています。



臨床シナリオ・学部連携 PBL を体験しました

歯学部3年 稲本 香織

平成27年12月4日、10日、15日で、臨床シナリオ・学部連携 PBL を体験しました。臨床シナリオ・学部連携 PBL では、グループごとに分かれ、提示された臨床シナリオを医・歯・薬・保健医療の4学部でグループディスカッションを行ない、患者さんの問題点、治療ケアプランについて話し合い、決定していきました。臨床シナリオを見ながら、口腔と全身疾患の関連性、口腔ケアの重要性などを他学部の説明するというのは中々難しいと感じました。このことから今までの

授業の知識や他学部の分野の知識をある程度を知った上で議論をしていけばもう少し円滑に議論ができ、患者さんに必要な具体的な案も出てきたのではないかと思います。また、逆に他学部の分野を知らないからこそ思ったのは、歯科の分野だけでは見つけにくい患者さんの問題点も出てきて学部連携で話し合うことで他の分野に対しての理解を深め、関心を持つようになりました。また、プログラムマップを用いて患者さんと家族が有する問題をグループ内で共有し学習項目を考えて他の学部の分野も含めて自己主導型学習をして共有することによってより理解が深まりました。最後に、患者さんに対しての必要なケアプランを議論し、他のグループに発表することは、今後医療者になるにあたって重要で必要なことだと感じました。



地域連携歯科医療実習に参加しました

歯学部3年 渡辺 紘子

私は今回地域連携歯科医療実習をするにあたって1つの診療所を運営していくうえで、歯科医師以外の他職種とどのように連携をとっているのか見学することを目標の1つとしました。実習先では患者さんの誘導やユニット周りの準備、印象採得、天然歯の2級インレー窩洞の切削など様々なことを体験させていただきました。抜歯を行う患者さんの血圧検査や脈診も実際に行い、口腔内領域だけでなく全身の知識も歯科医師には必要であることを改めて知りました。また、地域で連携をしている耳鼻咽喉科のクリニックや薬局へ訪問させていただき、歯科との連携や地域での活動についてお話を伺う機会がありました。三歳児歯科検診にも同行させていただき、そこでは口腔内環境の確認だけでなく、保護者の方への指導など歯科医の社会的な役割を見学することができました。今回の実習では、医師、薬剤師、看護師、歯科衛生士、歯科助手などの他の医療従事者と接する機会がありましたが、そこでは他の職種を尊敬し合うことがより良い治療を患者さんに提供することに繋がると実感しました。この実習の貴重な体験を糧として、日々精進していきたいと思っています。



戦略的大学連携事業シンポジウム 「からだを守る口腔ケア」が行われました

口腔衛生学部門 弘中 祥司

新年を迎えた1月9日(土)に10年目を迎える、8大学連携事業の口腔医学シンポジウムが福岡大学のメディカルホールで行われました。この事業は、10年前に福岡歯科大学・福岡大学・島根医科大学・神奈川歯科大学・鶴見大学・岩手医科大学・北海道医療大学、そして本学の8つの大学において、歯科だけの範疇



を超えて、口腔医学を教育に取り入れようということを目指し、大学間連携事業が行われました。5年間の助成が終了してもなお続いている本事業は、本学では建学精神となっている、チーム医療の実践を歯科の単科大学でも実践するためのIT教育となって、継続しております。福岡大学は日本初の地下鉄直結の都市型病院で度肝を抜かれましたが、シンポジウムの内容は本学の優位性が確認され、宮崎歯学部長とともに、本学のリードを再確認したシンポジウムでした。情報社会の今、立ち止まればたちまち遅れてしまう現代、連携校の発信を肌身を感じる必要性があらためて確認されました。今年、福岡歯科大学が主催で4年に1度の日本歯科医学会が初めて福岡で開催されま

す。Webの普及で、情報の発信は東京だけではない事を考えさせられた、福岡の出張でした。



認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

●日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

村上 浩史:口腔衛生学部門

高城 大輔:口腔衛生学部門

森田 優:口腔衛生学部門

台北医科大学の学生が来校しました

歯学部長 宮崎 隆

本学は国際化に力をいれ、本学学生の海外大学での研修や実習参加、あるいは海外大学からの選択実習生の受入を行っています。歯学部はこれまで12大学歯学部と交流プログラムを締結してきました。その交流校の一つである台湾の台北医科大学から3年生の女子学生3名が来校し、1月18日から2週間の日程で選択実習を受けました。

台北医科大学は台北市南部に本拠地をおく私立医系総合大学で、本学医学部とも交流プログラムを締結して、臨床実習生の交換で実績があります。国際交流に力をいれ、毎年5月に国際学術週間を設け、世界中から講師を招聘して学生教育に力をいれています。昨年度は本学からも講師を派遣しました。

1月18日の未明から東京は雪になり、交通機関に影響が出て大変な朝を迎えましたが、学生たちは初めての雪の経験で楽しんでいるようでした。また、事前に天候を調査してきたのか、防寒具を着て、足元も大丈夫でした。桑田教授のコーディネートで、歯科病院の各診療科で臨床のトピックスを体験することになっています。また、学生との交流も計画されていますので充実した体験をつまめるように期待しています。



編集後記

口腔解剖学講座 野中 直子

平成28年も早いもので1か月が過ぎました。大学は、入試・定期試験・進級試験の時期になり、診療・研究・教育をしながらの忙しい時期になります。皆様、体調管理にはお気を付けいただき、今年も頑張ってください。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿執筆にご協力いただきました先生方に深く感謝いたします。

今年も昭和大学にとって良い年になりますように！

